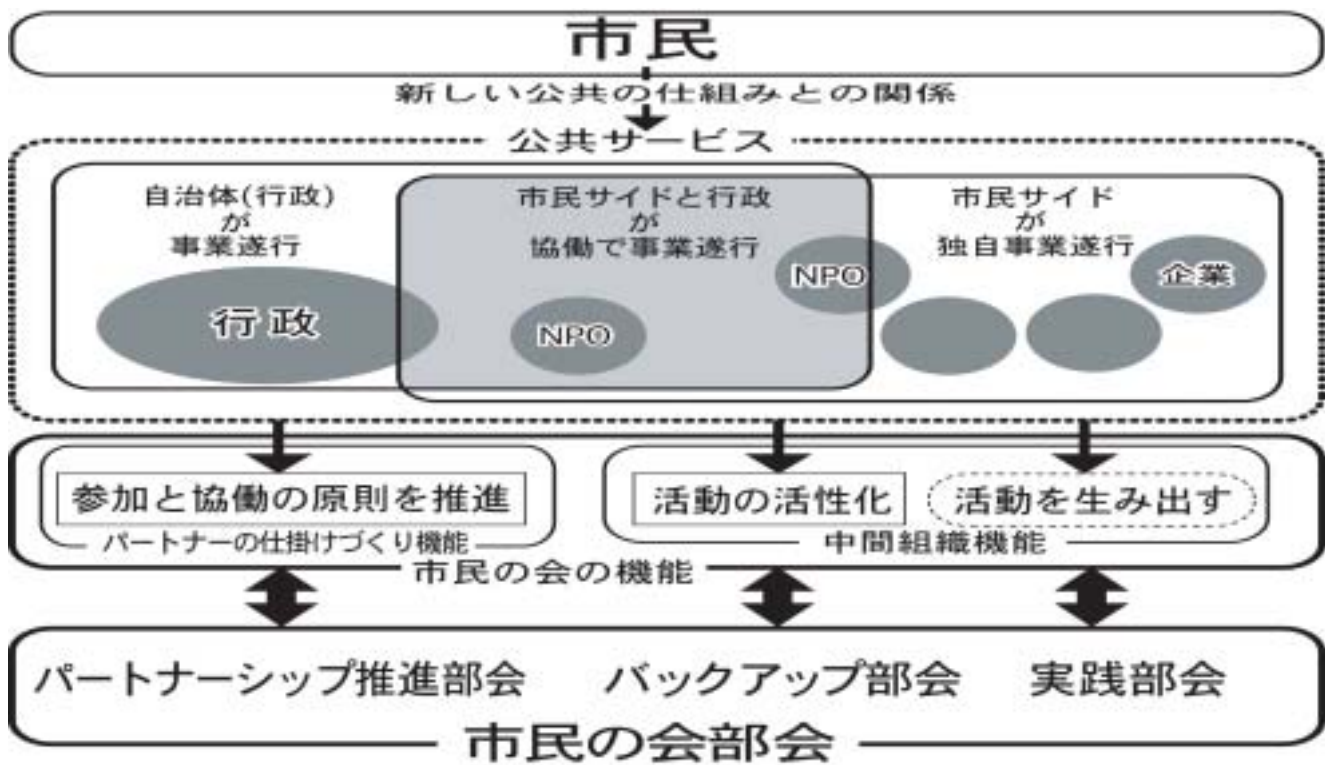




市民力を生み出し、育てたい

～ 市民と行政はパートナー ～

5月に発足した「麻生まちづくり市民の会」は、いよいよ活動テーマの選定・企画・実施計画へ取り組み始めています。新しい時代の大きな流れとして、市民自治の流れと公共サービスの多様化(行政・市民・市民と行政の協働)の流れがあります。市民の会は、このような時代に対応できるまちづくり活動の組織としてつくられました。それでは、どのようなつくりになっているかご紹介しましょう。下図は市民の会の機能と部会の位置付けです。



上の図でおわかりのように、市民の会が担う役割は2つあります。

1) 相互ネットワークの確立 = 中間支援組織機能をもつこと。

具体的には市民活動の活性化のために、その担い手を「生み」、「育て」、「継続させる」機能を持ちます。

2) 「参加と協働の原則」を推進するものとして、パートナーの仕掛けづくり機能を持ちます。

そして、この2つの役割を担うものとして、機能別の3部会があります。

1) 実践部会………「生み出す」機能を担当。

2) パートナーシップ推進部会……パートナーの仕掛けづくり機能を担当。

3) バックアップ部会………「育て」、「継続させる」機能を担当。

このような機能を持った3つの部会は、これからの活動を進めていく上で部会間のコミュニケーションと協力関係をしっかりと育てていくことが重要になりますが、その要となるのが、正副会長、各部部长、専任の運営委員の計8名で構成された運営委員会です。まちづくり活動で長年貢献してきている正副会長を軸にした運営委員会と会員とで市民の会の活動を実りあるものにしていかなくてはなりません。今後はそれぞれの役割を担って立ち上げる活動テーマをお伝えします。(2,3面で各部部长のコメントを掲載しています。)

麻生まちづくり市民の会 各部会の活動状況

実践部会長 田島秀夫

～人と街と環境を大切にする麻生のまちづくり～



自ら住んで生活している「まちづくり」は市民が参加し、自治体と協働してつくり、自治体は権限と財源を持って行政を行うとする地方分権一括法は平成12年4月に施行された。

地方分権が進み、市町村の主体性が強いドイツ

では、日本以上の車社会であり、そのあつれきは深刻である。郊外への拡散と都心の衰退、長引く不況と財政難、参加への人々の価値観の変化の下で、都心再生や景観・環境保全・交通など着実に成果をあげている。

自動車依存型市街地のスプロールをコントロールし、公共交通や諸サービスを適切に供給しながら、適度な密度と適切に分節化された市街地・住居地と緑地・農地の適切な配置を達成し、持続的に発展可能(サステナブル)で、暮らしやすい(リパブル)住居空間を形成するシステムを確立することはグロー

編集委員注:スプロール(市街地が無計画・無秩序に郊外に広がって行くこと) ワークショップ(研究集会) コミュニティ(地域社会)

バルに共通した課題である。

ところで、実践部会は麻生まちづくり市民の会の設立趣意書に賛同し、特に「市民によるまちづくり活動の実践」に熱い思いをもった61名がメンバーである。部会の活動は5月17日の設立総会後から5回実施した。全体勉強会でのガイドラインやまちづくり会議の活動結果の報告を受けた。その上に、昭和57年9月設立の「区民懇話会」以降の区民と行政の麻生のまちづくりにかけた熱意の結晶である「区づくり白書」「まちづくり会議活動報告」や「川崎市中期計画」と2回のワークショップで熱心に検討した課題の抽出表との正確な対照表をもとに検討、整理した。5回目の部会では、「福祉・コミュニティ」「緑・環境」「道路・交通」の3小委員会に分かれて企画書作成に向けて検討を重ねた。

部会員は地域や団体で地道な活動をされている方々であり、パーソナリティが明確で、毎回、真摯な態度で自己表現に向けて熱心に参加されている。

部会はきわめて開かれた運営を心掛ける。自由闊達な意見交換と他人の意見に謙虚に耳を傾け、部会全体や運営委員会で決定されたことは頑なに遵守することを基本方針としたい。

パートナーシップ推進部会長 白井 勇

市民が自ら住むまちを良くしようという社会現象



の流れの中で、まちづくりを行政と協働して市民参加により行うパートナーシップの役割は、市民自治の流れとともに、公共サービスの担い手の多様化(市民まちづくり活動と行政分野とのボーダレス化)がもたらした方向とも云える。

市民の会パートナーシッ

プ推進部会では市民参加と協働の原則をオンブスパーソン制度等のパブリックコメント型ではなく主にワークショップ型で協働の場を設け運営することで担保実現させようと活動することを描こうとしている。

ここで行う事業タイプは行政発意型と市民発意型の2つの活動を扱うことになるが特に市民発意型では行政課題や市民ニーズに基づく事業の提案から

出発し、事業の進め方の検討、委員会の構成等の検討、事業の運営サポートに至る一連の流れに関わってゆくことになる。そこで検討が必要なのは、課題＝事業とするのではなく緊急性、効果、財源等を総合的に勘案して事業化することであり、さらに市民の会での重点化、市民サイドの熟度があがっていることが重要である。

市民が参加することで、何かが見え、何かが変わり、少しずつ住みよいまちが実現できることを確信して活動を進めるつもりである。

以下に今まで行われたパートナーシップ事業を紹介する。

緑陰型公園管理維持運営検討

地区カルテ調査作成作業

新百合ヶ丘駅南口デッキ補修

新百合ヶ丘地区緑化推進重点地区計画作成

都市計画マスタープラン麻生区構想作成

(進行中)

上麻生隠れ谷公園再整備(進行中)

バックアップ部会長 竹市 八郎



この紙面を目にした多くの人は、長ったらしい、耳慣れない「麻生まちづくり市民の会・バックアップ部会」とは一体何をやる会なのだろうかと、疑問を持たれたことでしょう。

まずその疑問に答えさせていただきます。麻生区ではたくさんの団体・グループが様々なまちづくり活動を展開しています。これらの活動主体が21世紀前半の課題である、地方分権・市民自治の担い手の柱になると思われま

す。

バックアップ部会は、まちづくり活動の輪がより多くの区民に広がり、浸透するにはどうしたらいいか、そのためのシステム、装置などの施策を検討し、企画し、実行する部会です。具体的な例として、昨年4月麻生区役所4階にオープンしバックアップ部会に引き継がれた「区民活動支援ルーム」があります。支援ルームには会議室や印刷機などがあり、

ボランティア活動などの準備のためのミーティングやチラシ等の印刷に利用されています。この例のように、バックアップ部会は、市民社会(麻生区)という舞台に於いてアクター・アクトレス(俳優・女優)として演ずるのではなく、名演技を演出するための環境の整備、大道具、小道具、照明といった舞台づくりをする役柄です。

現在、バックアップ部会には一般公募に応じた32名が所属し、先人の残してくれた、「麻生区区づくり白書」、「麻生まちづくり会議報告書」等を参考に、また日頃から自身の活動を通して感じている麻生区の課題を持ち寄り、活動テーマの選定に真剣に取り組んでいます。

ワークショップや会議での意見を、大まかにまとめますと 1、場の支援 2、交流する場の企画 3、緑に関する活動支援 4、情報に関する事項 5、区民活動の拠点づくり 6、区民活動支援ルームの運営など多岐に渡っています。大きなテーマばかりで不安に駆られます。郷土の先達が残された「積小為大」の名言を信じ、身近な課題を出来ることから、部会員と、そして多くの区民の皆様と解決策を共有しつつ、額に汗して、前進出来ればいいなあと思っています。

第3回 麻生ハートフルエイジ・ファッションショー

まちづくり会議から引き継がれた、実践部会の一つの事業として、今年も高齢者ファッションショーが開催されます。引きこもりがちになる高齢者の方々に、元気にさっそうと街に出かけてもらいたい。そんな思いから、地域活動に参加できる場を提供して、仲間の輪を広げ、健康づくりに、生きがいづくりに、役立ててもらおうと開催しています。

今年はまだもう一步広げて、地域の人びとに応援してもらいたいと考え、支えてくれる裏方として、地元に関係のある人々に協力をお願いしました。衣装は東京服飾造形短期大学の先生方、ヘアメイクは地元の美容院、ピアノは昭和音楽大学の学生、記録ビデオは日本映画学校のOB、舞台写真は麻生老人福祉センター写真クラブOB、介助と移送は緑陽苑、その他、町会自治会、エルミロード、ビブレなどの方々が手伝ってくださいます。募集で集まったモデルさんたちは、もう衣装も決まり9月から舞台で歩くための練習が始まっています。開催日まで8回から10回程度の練習がありますが、皆さん見違えるほど元気にさっそうとされます。

モデルさんには、102歳の方、車椅子の方、杖の方、目の見えない方と色々な方が参加されています。近い将来、遠い将来の自分の姿を重ねて、舞台をご覧になってはいかがでしょうか。晴の舞台は10月12日麻生区民まつり、市民館大ホールで11時から始まります。

(角 井)

防災訓練とまちづくり

9月1日防災の日に、震源地川崎市マグニチュード7.0という想定で今年は麻生区が川崎市の中央会場となり、救助犬二匹と1500名の参加者で訓練が行われました。初期消火には町会、自主防災組織の人々、また地震の際には電話(固定、携帯)がつながりにくくなるため、情報収集、伝達には、アマチュア無線情報ネットワークの人々、道路から瓦礫を撤去



するのに、建設業協会、建設重機協同組合の作業隊、応急救護には、医師会、赤十字防災ボランティア、その他企業、NPO法人など地域の人々の参加が多く見られました。大災害はいつくるか分からない。私たちの生命と財産、生活に直接関わる問題として、だれもが避けることのできない課題です。阪神・淡路大震災では、住民どうしのつながりの深い地域では、安否確認や救助が早くでき、助け合って動いたことなど報道されました。

麻生区では、井戸や独自の消火隊を持っている町会自治会もあれば、新しくできたマンションなどでは住民どうしよく知らない様々です。また、山坂の多い麻生区では、その置かれた自然条件によっても防災対策の内容が違ってきます。そのとき、自分だけで、家族だけで、頑張る生命と財産を守り切れるでしょうか。救援体制が整ってくるまでに3日間はかかると言われています。行政機関に頼らず、地域の住民としてできる事は何か。「自らの命は自ら守る、自らの地域は皆で守る」という自主防災の原点を確認し、誰もが参加できるまちづくりの課題として、地域の防災を考えてはいかがでしょうか。(角井)

花と緑の街かどコンクール

麻生区花と緑の街かどコンクール運営委員会では、麻生区内の「住宅街」「通り」「街かど」「窓辺」「広場」「樹林地」等において、四季を通じて美しい潤いのある景観づくりに努めている個人、グループ、商店(街)等を募集しています。

【応募期間】平成15年9月1日(月)~10月20日(月)必着です。詳細は区政推進課にお尋ねください。
電話:965-5116



麻生まちづくり市民の会、今後のスケジュール (どの会も傍聴が出来ます。会場は区政推進課にお問い合わせ下さい)

運営委員会.....10月14日(火曜日)14時から / 10月28日(火曜日)14時から

実践部会.....10月3日(金曜日)18時30分から

パートナーシップ推進部会...10月6日(月曜日)14時から

バックアップ部会.....10月1日(水曜日)15時30分から

編集後記 今回第2号は、麻生まちづくり市民の会の、実践部会、パートナーシップ推進部会、バックアップ部会、それぞれの役割と機能など、皆様はこの会の活動が理解して頂けるように編集しましたが、いかがでしょうか。今後とも皆さんに読んで頂けるよう、一層紙面の充実に努めていきたいと思っております。(五十嵐)

発行:麻生まちづくり市民の会広報委員会
連絡・問い合わせ先:麻生区役所区政推進課 電話965-5116